

シリーズ **土地改良**のあしあと **山田池土地改良区(津市)**

本地区は、津市(旧久居市)の雲出川、長野川の合流点、雲出川左岸に位置し丘陵地のため、水源は山田池(貯水面積約3ha、貯水量19.5万t、受益面積約45ha)より取水している。

本改良区は古文書によれば、1686年(貞享3年)藩は財政基盤安定のため積極的に農業振興(新田開発)に努め、新池を造築するを嚆矢とするが、その後の変遷については詳らかではない。その当時から番水制で、「水掛けは、水廻りをつけ依怙轟真なく油断なきように」と記している。

昭和50年に県営大規模ため池等整備事業に着手し、堤体の嵩上げ、グラウト工、コンクリートブロックの貼り付け等の改修工事を行ったが、用水路が未整備のため水不足の解消には至らなかった。

昭和58年、庄田山田池下土地改良区から組織変更し、現在の山田池土地改良区(組合員数105名、理事10名、監事2名、水廻り4名)となる。

昭和59年、県営圃場整備事業 久居地区が緒につき、本改良区関係区域は昭和62年度で工事が概ね完工し、平成2年には山田池に隣接する工業団地造成工事に伴い、余水吐排水路(約370m)が改修完工した。用排水路が整備され、池の放水期間の短縮、整備田では水持ちがよくなるが、26年を経過した現在では、排水路、暗渠排水からの漏水が水不足に拍車をかけている状況である。平成6年、25年の早魃では、一滴が万粒を育む瑞雨、喜雨に期待するも、収量が皆無に近い水田が散見された。

営農状況は、殆んど稲作単一の零細規模で且つ高齢化(組合員の平均年齢71歳)、担い手不足、土地持ち非農家が



山田池(前川由一さん 撮影)

増加し、耕作放棄田も見受けられ、近い将来に水稻栽培、水利施設、農道の維持管理も困難になると想定され、改良区の組織・運営の基盤強化が急務である。

また、水源確保には、山田池の浚渫、井戸掘削、河川からの取水、灌漑水のパイプライン化等を検討しているが、今次の農政の転換、厳しい農業情勢のなかで苦慮しているところである。

山田池には、弁財天が鎮座し、毎年8月に七栗産業会館で「弁天さん」と愛称され豊作祈願の「手踊り」が行われている。大正初期(一説に大正3年)に始まり、当時は夜店も出て夏の一大イベントであったが、現在では自治会の夏祭りの一環として存続しているが、「手踊り」の後継者育成が課題でもあるが、この文化を伝承したいと考えている。



記念碑



弁天さん(前川由一さん 撮影)